

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京歯科大学大学院歯学研究科						
教育プログラム・コース名	口腔がん治療専門医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	歯科医師・大学院歯学研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	口腔の専門家としての特性を生かしながら、高度口腔がん診療を実践できる人材、口腔がん診療における連携協力体制を構築できる人材、歯科界における口腔がん早期発見の普及に貢献できる人材、口腔がん患者に対する療養生活の質の向上に向けた取り組みを実践できる能力をもつ人材である。がんの医療現場において、口腔がんの最先端の診断・治療を関連各科ならびに多職種と連携してマネジメントできる能力を修得し、将来は学際的な指導的役割を担うことができるリーダーシップを持った歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	専門医養成コースの履修要件 ・研修コース：東京歯科大学口腔がんセンターおよび市川総合病院医科研修 ・口腔がん、がん口腔支持療法インテンシブコースの修了（12か月） ・国内留学：国立がん研究センター中央病院（6か月） ・地域医療連携事業への参加：口腔がん検診事業、口腔がん早期発見育成事業 ・ポートフォリオの提出：評価シート、担当症例報告、関連セミナーへの参加 ・原著論文1編 または 臨床研究論文3編						
履修科目等	大学院共通科目 ・必修科目(主科目)：主科目(講義等)、大学院共通講義Ⅰ(歯科専門分野)、大学院セミナー ・選択科目：主科目以外の科目講義等、大学院セミナー 主科目、選択科目をあわせて必修科目30単位以上を履修し、独創的研究に基づく学位論文を提出し、最終試験に合格すること。						
がんに関する専門資格との連携	・口腔外科認定医・専門医・指導医（日本口腔外科学会） ・がん治療認定医（歯科口腔外科）（日本がん治療認定医機構） ・口腔がん専門医（日本口腔腫瘍学会）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに関わる医科研修や多職種との連携活動を大学院教育に取り入れ、国内留学も含めたグローバルで高いコミュニケーション能力を有する専門性の高い歯科医師の創出を図ることが本コースの特色である。関連各科との連携による高度口腔がん治療の実践、口腔がんの予防・早期発見に向けた歯科界全体への取り組み、口腔機能ならびに形態の維持と回復による口腔がん患者の生活の質向上に向けた取り組みを推進する能力を有する人材育成を目的としている。これらを勘案し、附属病院としてがん診療連携拠点病院を有する歯科大学ならではの研修プログラムを展開し、がん治療に還元できる歯科医学の知識・技能・態度を涵養するための方略を作成した点が独創的といえる。						
指導体制	東京歯科大学市川総合病院は東葛南部のがん診療連携拠点病院であり、がん診療に関わる医師、歯科医師、その他多職種による横断的な指導体制が確立している。また、病院内には口腔がんセンターが設置され、歯科口腔外科医による専門的な指導体制が確立している。さらに国立がん研究センターでの研修協力体制も確立している。						
修了者の進路・キャリアパス	学位取得後は関連病院に出向し、口腔がん診療およびがん支持療法の専門家としてさらなるキャリアアップを図る。関連病院に出向中は、各種専門資格の取得を目指し、将来この分野の指導的役割を担う歯科医師として臨床、教育、研究を牽引し、さらに海外留学への過程を経て国際的学際活動が行える人材となることを期待する。						
受入開始時期	令和6年4月以降						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	5	5	5	5	5	25
受入目標人数設定の考え方・根拠	本学大学院の入学数が年間約40名である。このうち口腔外科系に志願する者は約5～10名である。口腔がん治療を実施する関連病院は10施設あり、これらに適正な人材を配置し、さらに発展するためには今後6年間にすくなくとも10名以上を育成する必要があることから、受け入れ目標人数を5名、計25名に設定した。						
履修者数 <small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	1					1